

本研究の背景と目的

背景

水理検討の生産性向上

河道計画の検討では、近年の測量技術や解析技術の発展により、今後は平面二次元以上の解析モデルを用いた検討が標準となることが予想される。

数値計算の高速化手法である**平均成分加速法(以下ACA法)**を実務における洪水流解析へ適用できれば、検討時間の短縮が期待できる。

課題

平面二次元以上の洪水流解析モデルを構築における粗度係数や樹木群抵抗のパラメータ調整では、パラメータ同定に複数回の計算が必要な場合があり、労力と時間を要する。

ACA法の実河川における適用可能性や実務における検討フローは未整理

目的

ACA法の実務への適用を目指し、粗度係数の調整計算にACA法を適用した場合の検討フローを整理・実河川で適用

実河川を対象として、ACA法の加速係数の違いが計算結果に与える影響を分析

ACA法の適用による検討の効率化の程度を定量的に確認

→ACA法適用による粗度係数調整計算の効率化程度を確認

